

昭和興産

昭和興産は、5カ年の中期経営計画を2016年1月からスタートする。策定作業は詰め段階に入っており、12月に最終決定する。現中計で掲げた基本方針、重点テーマを継承し、日本とアジアで活躍できる企業への進化を目指し、引き続き情報電材関連、環境・エネルギーおよび医療・介護・健康・子育て関連をターゲットとしたビジネスを積極的に推進する方針。

13年度からスタートした「躍進800計画」(創業70周年からの新たな挑戦)をスローガンとする現中計の最終年度に当たる15年度の業績は、1～9月の累計売上高がほぼ前年同期並みとなった。ソーラーパネル用アルミニウム型材や輸入樹脂が苦戦する一方で、情報電材関連、高吸水性樹脂や透湿フィルムなどの紙おむつ関連商材もが牽引した(田淵明雄社長)という。

タイ、上海、香港、インドネシアに現地法人を

新5カ年計画、16年始動

構える海外事業は、昭和興産(タイランド)が情報電子材料・食品原料などを中心に引き続き好調で、今年4月に日本からの出向者を3名に増員した昭和興産(上海)も「樹脂や自動車関連が急速に伸びてきた」ことなどにより増収増益基調で推移している。華南地区の新拠点を設置へ向けた企業化前調査(FS)にも着手している。

14年秋に本格業務を開始した昭和興産(インドネシア)は今年4月に日本入スタッフを2名に増員した。いろいろな案件が出てきていて、将来的には「楽しみ」な状況にあり、18年度に10億円の売上高を目指す。